

## 特定研究

### 「日独双方向的な芸術教育の実践的研究」報告

報告：鍛澤達夫

研究代表者：鍛澤達夫

研究分担者：チャールズ・ウォーゼン

研究協力者：入江早耶

#### 研究目的

2011年に行なわれた「日独双方向的な芸術教育の実践的研究」とは、広島市立大学と本学の学術交流協定大学であるハノーファー専科大学の、新たな独創的視点と芸術の可能性を創出するきっかけをつくるための、大学間の国際交流を交えた共同研究である。

#### 広島市立大学でのワークショップ内容

2011年5月31日から6月2日、広島市立大学芸術学部棟内で、ハノーファー専科大学のバーナード・ガーベルト教授とアンドレ・バンフラコウ教授によるレクチャーとワークショップが実施され本学の学生約30名が参加し、3日間を通して日本では学ぶことのできないドイツの現代美術とプロダクトデザインの基礎を学んだ。

現代美術を専門とするバーナード・ガーベルト教授は、1日目に日常で使用される傘やハンガー、空き缶などの大量生産された製品をモチーフにした現代美術作品についての講義を行なうと同時に、ワークショップで制作を行なう前段階の考案やドローイングの描き方などを指導した。2日目に学生は自分の身の回りにある日用品を持参し、解体、再構築することでフォルムを定めていくという作業を体験した。3日目は、翌日制作した作品の調整と展示作業を行なった。プロダクトデザインを専門とするアンドレ・バンフラコウ教授は、1日目に形体に関する講義と紙を使用したプロダクト製品のモデル作製についての説明を行なった。作業に移った学生は、モチーフを決定し、簡略化したフォルムを図面に描いた。2日目は、図をもとに厚紙を用いて立体に起こす作業を実施し、翌日は展示作業を行なった。最終日となる3日目の午後からは、双方のワークショップで制作した作品を学生がプレゼンテーションし、ハノーファー専科大学と広島市立大学の教員を交えて講評を行なった。また、より親睦を深めるため構内でささやかなクローゼングパーティーも行なわれた。



図1



図2



図3

図1～3 広島市立大学でのワークショップ風景

### ハノーファ専科大学でのワークショップ内容

2011年9月21日から23日、ハノーファ専科大学で広島市立大の大塚智嗣准教授と王培助教によるレクチャーとワークショップを実施した。ハノーファ専科大学の学生の中で日本の伝統文化に興味をもつ学生約40名が3日間の講義と創作実習の授業に参加した。

1日目は、学生に日本の伝統文化である漆と日本画の歴史と技法、作品紹介などの講義を行なった。2日目は、日本画を専門とする王助教によるワークショップが実施された。日本画の材料と水墨画の技法についての講義を行なった後、墨流しと箔を用いて実制作を行なった。

3日目は、漆造形を専門とする大塚准教授による漆加飾法（主に消粉蒔絵と沈金）についてのレクチャーを行ない、実際に漆を塗った板に消粉をつけ乾燥させる消粉蒔絵と漆面に模様を付けて金箔や金粉を埋め込む実習を行なうことで、日本文化と美術の関心を深めた。



図4



図5



図6

図4～6 ハノーファ専科大学でのワークショップ風景

### 今後の研究

ハノーファと広島での相互研究は、現代美術、プロダクトデザイン、漆造形、日本画という幅広い分野の教員を交えてお互いの専門分野を双方の学生へ紹介することで大変内容の濃いものとなった。来年度から、より深い研究へと進めるため教員の派遣は1年間に1大学2名を派遣する。また次年度は、日本の視覚表現を紹介することでより日本文化・美術への関心と興味をそそる様な講義と体験実習からなる研究を行なう予定である。

### ※研究協力者

- ハノーファ専科大学教員：バーナード・ガーベルト、  
アンドレ・バンフラコウ
- 広島市立大学教員：前川 義春、南昌伸、  
大塚 智嗣、北田 克己、王 培
- 広島市立大学ワークショップ：2010年5月18日、19日、20日  
通訳：渡辺 恵  
ワークショップアシスタント：ガリヤーシン・ナターリア、  
フォルタニエ・クラウディア、入江早耶
- ハノーファ専科大学ワークショップ：2010年9月21日、22日、  
23日  
ワークショップアシスタント、通訳：木村 華苗、シゲ フジシロ